

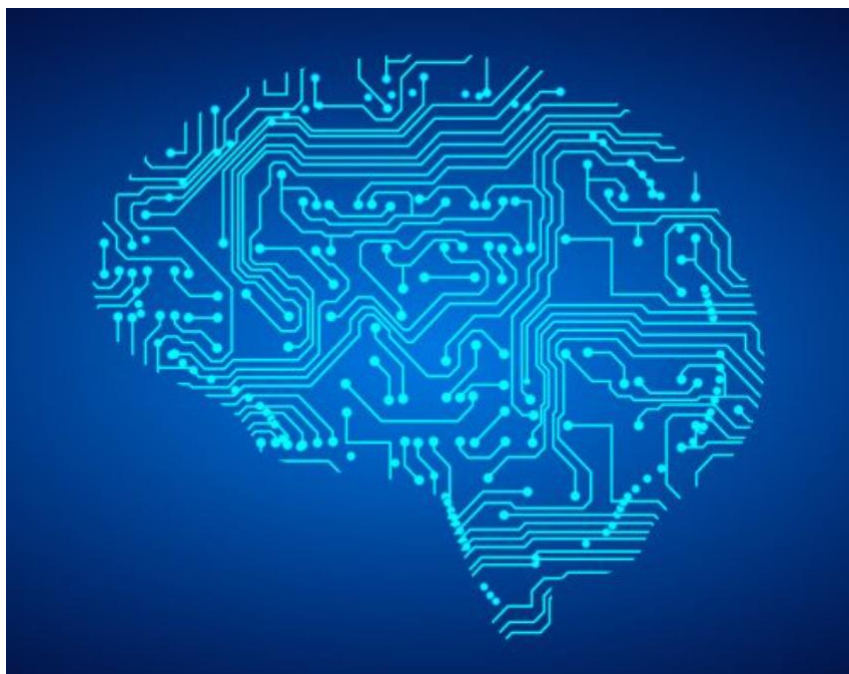
# 人工知能使った大腸がん検診と 大腸内視鏡検査について

東京医科大学などの研究グループは、尿中の代謝産物を人工知能（AI）で解析することにより大腸がんを高精度に検出する検査法を開発し、研究結果を「International Journal of Molecular Sciences Cancers」誌に掲載しました。



大腸がん患者特有の尿中代謝物

$N_1, N_{12}$ -diacetylspermine に、複数のポリアミン類を組み合わせ、AI に学習させることにより、大腸がんを高精度に識別できる方法です。



大腸がんの早期発見・治療は極めて重要であり、今後、便潜血反応検査よりも有用な検査法となりうるか注目されます。

大腸癌新規バイオマーカーと大腸内視鏡検査の組み合わせにより、大腸がんを早期診断に大きく寄与する可能性が期待されます。

